

最近のブータン情勢と日ブータン関係

ブータン概要 1

ブータン政治・経済情勢・外交 2

日ブータン関係 3

2024年7月
外務省南西アジア課



ブータン王国

●08年に王制から議会制民主主義立憲君主制に移行

先代・現国王主導による民主化。

●国民総幸福量(GNH)に基づく国づくりを実践

2015年GNH調査では、国民の約90%が幸せと回答。

●中国とインドの間に位置、インドと密接な関係

インドとの緊密な関係。米英仏露中とは外交関係有せず。
54か国及びEUとのみ外交関係。

●伝統的な親日国

2016年に外交関係樹立30周年。

* 人口: 78.2万人(2022年:世銀資料)

・20歳未満の人口の割合は約40%

* 民族: チベット系,ビルマ系東ブータン先住民,ネパール系等

・ブータン人は見た目が日本人に似ており,蒙古斑を有するなど,
日本人と民族的に近いと考えられている

* 宗教: チベット仏教(憲法上,宗教の自由は保障されている)

* GDP成長率: 4.4%(2021年:世銀資料)

* GDP: 27.7億米ドル(2021年:世銀資料)

* 一人当たりGNI: 3,290米ドル(2021年:世銀資料)

・2023年12月に後発開発途上国(LDC)卒業

* 兵力: 約1万人(2017年推定) / 国防予算: 1,700万ドル(2017年推定)

・国王軍:約7,000人,国王親衛隊:約2,000人,警察:約1,000人

・インド軍事顧問団駐留

* 在日ブータン人数: 442名(2022年12月:法務省)

* ブータンにおける在留邦人数:134名

(2022年10月:外務省海外在留邦人調査統計)

* 日系進出企業数: 1社

(2021年:外務省海外進出日系企業拠点数調査)

* 面積: 約38,394平方キロメートル(九州とほぼ同じ面積)

* 言語: ゾンカ語(公用語)ほか,英語も広く通用

・東部のツァンラ語,南部のネパール語など約18の方言が存在



* 略史: 17世紀半ばにチベットの高僧が政教一体の国家として統一。その後,仏教界を治める大僧正と世俗界を統治する摂政の二頭体制の確立,中央政府の弱体化,豪族による群雄割拠の時代を経て,1907年にトンサ地域の行政官のウゲン・ワンチュクにより世襲制の王国が建国。建国後,鎖国政策をとっていたが,第3代国王が開国,コロombo・プラン(1962年),万国郵便連合(1969年),国連(1971年)に加盟。植民地化された経験がない。

ブータンの政治・経済情勢・外交

ジグミ・ケサル・ナムギャル・ワンチュク国王陛下



- 1980年2月生まれ。2006年12月、第4代国王(先代)からの譲位により、26歳で即位。
- 2011年10月、ジツェン・ペマ嬢と御結婚。同年11月に王妃陛下と共に国賓として訪日(福島県も御訪問され、被災地に祈りを捧げられた)。2019年10月、即位の礼に際して訪日。
- 2016年2月5日に第一王子、2020年3月19日に第二王子、2023年9月9日に第三子となる王女が誕生。

民主化の歩み



トブゲー首相

- 1990年代より、第4代国王主導により議会制民主主義を基本とする立憲君主制への移行を準備。
- 2007年(上院)及び2008年3月(下院)に選挙実施(ブータン調和党(DPT)内閣)
- 2013年7月第2回下院選挙実施(国民民主党(PDP)内閣)
- 2018年10月第3回下院選挙実施(ブータン協同党(DNT)内閣)
- 2024年1月第4回下院選挙では、ツェリン・トブゲー党首率いるPDPが30議席を獲得し、トブゲー首相率いるPDP政権が2期ぶりに発足。

◆ブータンの選挙制度の仕組み

	上院	下院
定員・任期	25議席、5年	47議席、5年(解散有り)
選出方法	全20県において1名ずつ選挙で選出されるとともに、国王が5名を指名。 <u>立候補者は政党に所属することは禁止。</u>	選挙は予備選挙と総選挙の二段階。総選挙では、予備選挙での上位2政党が選挙区毎に一人の候補者を擁立し投票が行われる。
権能	立法府である他、国家の主権と安全及び国民の利益に関わる事項に関するレビュー機関(憲法第11条) 議員は内閣を構成しない。	内閣を構成する。下院の第1党党首または同党が推薦する議員を国王が首相に任命する。予算案審議は下院でのみ審議(下院の優越)

最近のブータン経済

- 主要産業は、農業、電力(特に水力発電)、観光。
- 主要輸出品目はシリコン、電力、鉄・合金、セメント (主要相手国:印、バングラデシュ、伊、オランダ、ネパール、独)
- 主要輸入品目は、軽油、ガソリン、金属製品、米 (主要相手国:印、韓、中、星、泰、日)
- 大半の消費財・資本財を輸入(主にインド)に依存。貿易収支・サービス収支は恒常的に赤字。

外交(非同盟中立と善隣友好外交)

- 外交、国防等の分野においてインドと密接な関係(1949年インド・ブータン条約は「ブータン政府は対外政策に関し印政府の助言に従う」と規定していたが、これは2007年2月のジグミ・ケサル新国王訪印時に、国益に関わる事項についての相互協力を謳う規定に変更。)
- 限られた外交関係: 近隣諸国、日本等54か国及びEUとのみ外交関係保有(国連安保理常任理事国とは国交無し。)

日・ブータン関係

1986年：外交関係樹立

＜外交関係樹立以前＞

登山、観光、仏教等での両国国民間の交流

- 1964年：西岡JICA専門家の派遣
- 1971年：ブータンの国連加盟を支持

皇室・王室交流

- 1987年：徳仁親王殿下(天皇陛下)ブータン御訪問
- 1989/90年：第4代国王陛下御訪日(大喪の礼、即位の礼)
- 1997年：秋篠宮同妃両殿下ブータン御訪問
- 2011年：ワンチュク国王・王妃両陛下及び
ジツェン・ペマ王妃陛下御訪日(11月、国賓)
- 2017年：秋篠宮眞子内親王殿下ブータン御訪問(6月)
- 2019年：秋篠宮皇嗣同妃両殿下及び
悠仁親王殿下御訪問(8月)
ワンチュク国王・王妃両陛下御訪日(10月)
- 2022年：ソナム・デチェン・ワンチュク王女殿下御訪日
(9月、安倍元総理国葬儀)
- 2024年：三笠宮彬子女王殿下御訪問(3月)

経済協力

- 「ダショー西岡」専門家の農業支援(1964-1992)

●技術協力

※専門家、調査団、海外協力隊の派遣等

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
2019	-	15.28	8.65
2020	-	7.35	7.98
2021	-	9.76	11.72

●無償資金協力

※橋梁、食糧増産援助、草の根無償等

●有償資金協力

(我が国の対ブータン形態別援助実績、単位：億円)

「地方電化計画」

第1期：約36億円、07年4月E/N署名

第2期：約21.8億円、11年6月E/N署名

「新型コロナウイルス感染症危機対応緊急支援」

約33億円、22年5月L/A署名

「経済復興・強靱性向上のための開発政策借款」

約65.5億円、23年5月E/N署名

主要援助国
(ODA国別データブック2020)
1) 日本 2) 豪 3) 韓国
4) ドイツ 5) オーストリア

経済関係

- 対日貿易額(財務省資料、単位100万円)

	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	主要品目
輸出	246	265	121	22	23	107	183	74	712	381	34	64	生鮮、冷蔵野菜、合金鉄
輸入	1,495	429	848	2,062	2,074	1,029	1,091	682	690	591	859	656	自動車、自動車関連部品、建設用・鉱山用機械等

国際場裡

多くの国際機関での選挙・決議等において我が国を支持

- 2004年以降：「北朝鮮人権状況決議」への支持
- 2005年：安保理改革G4決議への共同提案国参加
- 2010年以降：核軍縮決議への支持
- 我が国の安保理常任理事国入りを支持(2011年11月ジグミ・ケサル国王陛下による国会演説等)

近年の日本・ブータン間の要人往来(皇室・王室を除く)

- 2018年：トブゲー首相(4月)、河野外務大臣(6月)
- 2019年：ツェリン公共事業定住大臣(3月)、ドルジ労働・人的資源大臣(4月)、
衆議院・議会外交1班(国体委員長班)(団長：森山裕衆議院議員)(8月)
- 2020年：参議院ODA調査団派遣第2班(団長：有村治子参議院議員)(1月)
- 2022年：武井外務副大臣(11月)、ワンモ保健大臣(11月)
- 2023年：ライ教育大臣(3月)、西村環境大臣(7月)